

活動報告

第 7 回信州介護学研究会事業報告

菊池小百合（佐久大学信州短期大学部）

The Report of 7th Shinshu Society of Care and Welfare

Sayuri Kikuchi (Shinshu Junior College at Saku University)

要旨: 介護を担う人材の不足が課題となっている中、第 7 回を迎えた介護学研究会は、「介護の明日に向かって」をメインテーマとして開催された。各施設の特徴や介護の取り組みを紹介するポスター発表、及び障がい者施設の作品展示、さらに利用者との日々の関わりの中で、それぞれが体験し感じた介護の魅力について、実践発表を通し伝えた。これらの内容を通し、参加者それぞれが介護を振り返ると共に、今後の介護について考える事の出来る貴重な時間となった。その内容について報告する。

I. はじめに

2025 年には 65 歳以上の人口は約 3,500 万人に達し、介護を必要とする高齢者の数の増加に伴い、介護者 245 万人が必要とされている。しかし全国的に介護者の不足が課題とされており、介護分野の有効求人倍率は全産業に比べ、高い水準で推移している状況である。そのような状況の中、信州介護学研究会は、介護人材の育成と介護職員の環境改善を目的とし、平成 24 年から始まった。年度毎に研究会の目的を明確にし、取り組みを行っている。第 7 回を迎えた平成 30 年度は、介護の魅力を発信することを目的とし、実践発表や介護に関する落語等が行われたので報告する。

II. 第 7 回信州介護学研究会事業概要

佐久大学信州短期大学部、社会福祉法人ジェイエー長野会を主催とし、平成 30 年 8 月 25 日（土）佐久大学を会場に開催された。メインテーマは「介護の明日に向かって」、サブテーマは「教科書に載らない介護のいいはなし」とし、介護施設職員、本学学生及び教職員、地域住民等 167 名が参加した。当日は落語とトーク、ポスター・作品展示、実践発表等が行われ、様々な視点から介護に関する「いいはなし」を伝え、学ぶ機会となった。以下プログラム詳細について記す。

1. 落語「介護と落語のコラボレーション～笑う門にはいい介護」

落語家の林家源平氏による「介護と落語のコラボレーション～笑う門にはいい介護～」が演じられた。介護へ

ルパーの資格を持ち、現在も林家こん平師匠の介護を続けている体験談などを、落語という日本古来の話芸に取り入れた内容であった。公演後は参加者をまじえてのトークが行われ、笑いが絶えない時間となった。参加者アンケートからは、「落語をまじえて介護の大切さを伝えてくださり、わかりやすかった。一秒の笑顔を大切にしてくれたい」「落語とトークを聞いて、普通の研修では聞いたことのない話を聞くことができ、研修に参加することができて良かった」といった感想が聞かれた。

日常の介護現場で見逃してしまいがちな様々なエピソードを、落語という形で演じられた事により、笑いの中にも介護現場を振り返る貴重な機会となり、さらに介護の楽しさと魅力を感じることでできる時間となった。

2. 施設紹介・ポスター展示、知的障害者施設作品展示

昼食休憩を含め、施設紹介・ポスター展示及び、知的障害者施設作品展示、書籍販売等が行われた。

施設紹介・ポスター発表は以下の 20 施設、作品展示は 8 施設である。

1) 施設紹介・ポスター展示

- ・長野県済生会特別養護老人ホームシルバーランドみつい
- ・長野県済生会特別養護老人ホームシルバーランドきしの
- ・社会福祉法人大樹会特別養護老人ホームベルポートまるこ東
- ・社会福祉法人浅間福祉会
- ・社会福祉法人ハートフルケアたてしな
- ・社会福祉法人恵仁会
- ・エフビー介護サービス株式会社
- ・社会福祉法人里仁会特別養護老人ホームさくら苑

- ・社会福祉法人望月悠玄福祉会あたり前の暮らしサポートセンター布施屋
- ・社会福祉法人佐久福寿苑特別養護老人ホーム佐久福寿苑
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホームのべやま
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホーム・養護老人ホームうすだコスモ苑
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホームこうみの里
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会佐久穂町障害者福祉施設陽だまりの家
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会北信地域事業本部
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホームローマンうえだ
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホームうつくしの里
- ・社会福祉法人ジェイエー長野会特別養護老人ホーム紅林荘

施設紹介・ポスター発表は、施設の特徴や独自の取り組みなどが紹介され、ポスターの前で、参加者と担当者とは活発に意見交換する様子が見え、参加者アンケートからは、「他のいろいろな施設のポスター展示など個性があって、興味深く見ることができた」といった感想が聞かれた。

2) 作品展示

作品展示施設及び内容は以下の通りである。

- ・社会福祉法人育護会浅間学園

写真1 社会福祉法人育護会浅間学園作品



- ・社会福祉法人愛泉会軽井沢保育園

写真2 社会福祉法人愛泉会軽井沢保育園作品



- ・社会福祉法人小諸学舎

写真3 社会福祉法人小諸学舎作品



・社会福祉法人しらかばの会たてしなホーム

写真4：社会福祉法人しらかばの会たてしなホーム作品



・社会福祉法人からし種の会緑の牧場学園

写真5：社会福祉法人からし種の会緑の牧場学園作品



・佐久市障害者支援施設臼田学園

写真6：佐久市障害者支援施設臼田学園作品



・社会福祉法人佐久コスモス福祉会佐久コスモスワークス

写真7：社会福祉法人佐久コスモス福祉会佐久コスモスワークス作品



・社会福祉法人小諸学舎しのめ作業所

写真8：社会福祉法人小諸学舎しのめ作業所作品



いずれの施設も、個性にあふれ大変見応えのある作品ばかりであった。紹介された一部の作品は、現在販売されているものもあり、魅力的な作品に感動を覚えた。

3. 実践発表

午後は「教科書に載らない介護のいいはなし」をテーマに、実践発表が行われた。

発表施設及びテーマは以下の通りである。

①特別養護老人ホームのべやま

テーマ「日々の支援を行う中で私が感じたこと」

②ローマンうえだ小規模多機能型居宅介護

上野の家

テーマ「地域で自分らしく最後まで過ごした A さんから学んだこと」

③障害者支援施設たてしなほむ

テーマ「やってってよかったこの仕事」

④株式会社ナガサカ

「ふれ合い、支え合い心身機能の向上を目指して〈いつまでも いきいきと！〉

介護実践の場で、利用者との関わりの中から感じた「魅力」をそれぞれが語り、その後質疑応答を通して意見交換が行われた。参加者からは、「介護士として働いていく中での貴重な体験談が聞け、これからさらに勉強に励んでいきたいと感じた。」「実践発表で職員の話聞くことができ、介護の良さを聞けて良かった。」「介護は奥が深く、応募者数などから厳しい目を向けられていて、環境は必ずしも良くないが、こういった機会を通じて介護に関心を向けてもらいたい。」等と言った感想が聞かれた。

介護者不足の背景には、身体的、精神的に大変な仕事、低賃金といったマイナスイメージがあることは歪めない。しかし実践発表では利用者との関わりの中から感じる介護のやり甲斐や、喜びが実際の体験として語られた。第7回のテーマ「教科書に載らないいいはなし」を伝え共有する機会になったと考える。

Ⅲ まとめ

介護学研究会は、第1回から述べ1460名の介護施設・事業所等関係者及び本学教職員、学生等が参加している。参加者の中には今後の介護を担う高校生や地域住民の参加もあり、現在のそして今後の介護を共に考える貴重な機会となっている。またそれは、介護の現場で日常的に行われている一つ一つの場面の中に、改めて振り返ると

「介護に関わることができて良かった」と思える瞬間があり、それらを伝え、介護の魅力を感じる機会となる。

日本は、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことのできる社会の実現を目指しているが、その実現の一端を担う介護職員の充足に向け、介護の魅力を伝えていく事が重要と言える。教科書には載らない介護の魅力を今後も伝え続けていくことが必要であると考ええる。